

平成23年度 燕市・西蒲原郡小学校教育研究会体育部研修記録

燕市・西蒲原郡小学校教育研究会

体育部長 的山信義(分水小)

1 研究主題

一人一人が意欲的に活動できる体育指導の工夫

2 研究の概要

(1) 第1回(6月1日) 実技講習会「投てきの動作を要する運動の指導法」

講師：脇野 哲郎 様(新潟市立総合教育センター 副参事)

会場：弥彦村立弥彦小学校

<講習の主な内容>

会員への事前のアンケートで要望が多かった、投てきの動作を要する運動についての実技講習会を実施した。講師には新潟市立総合教育センターの脇野哲郎先生をお招きし、ご指導いただいた。



ベースボール型ゲームの実習では、攻撃側も守備側も運動量が確保されるようなルールで行うことや、現在ある道具や段ボールなどを利用して容易に学習に取り組めることを学んだ。参加者は、息を切らせながらも児童の気持ちになって笑顔で講習を受けることができた。

(2) 第2回(11月30日) 授業研修「ラインサッカー」(第4学年)

授業者：今 雄一 教諭(燕市立島上小学校)

指導者：滝沢 一博 様(三条市立保内小学校 校長)

会場：燕市立島上小学校

<授業の概要>

体育館を横に使い、壁をゴールにしてラインサッカーを行った。

準備運動後、チームごとにパスやドリブルの練習をした。体育館の壁に掲示した練習メニューを参考にして練習している中、あるチームの児童は前時までの試合の反省を生かし、練習方法を工夫する姿が見られた。試合では、横長なコートを生かし、相手チームのいないサイドのゴールを狙って横パスを多用して得点を狙う姿が見られた。ボールをもっていない児童も空いているサイドに走り込み、「こっちが空いているよ。」と仲間に声をかけていた。

協議会では、児童の技能の高さや仲間同士の声の掛け合いの多さに驚いたという話が聞かれた。また、ボールの選定や場の設定に対し、「デジタルタイマーや得点板があるとよりゲームが盛り上がった」や「教師は審判ではない方がよい」といったご意見をいただいた。滝沢校長先生から、得点板や教師の審判について御指導をいただいた。